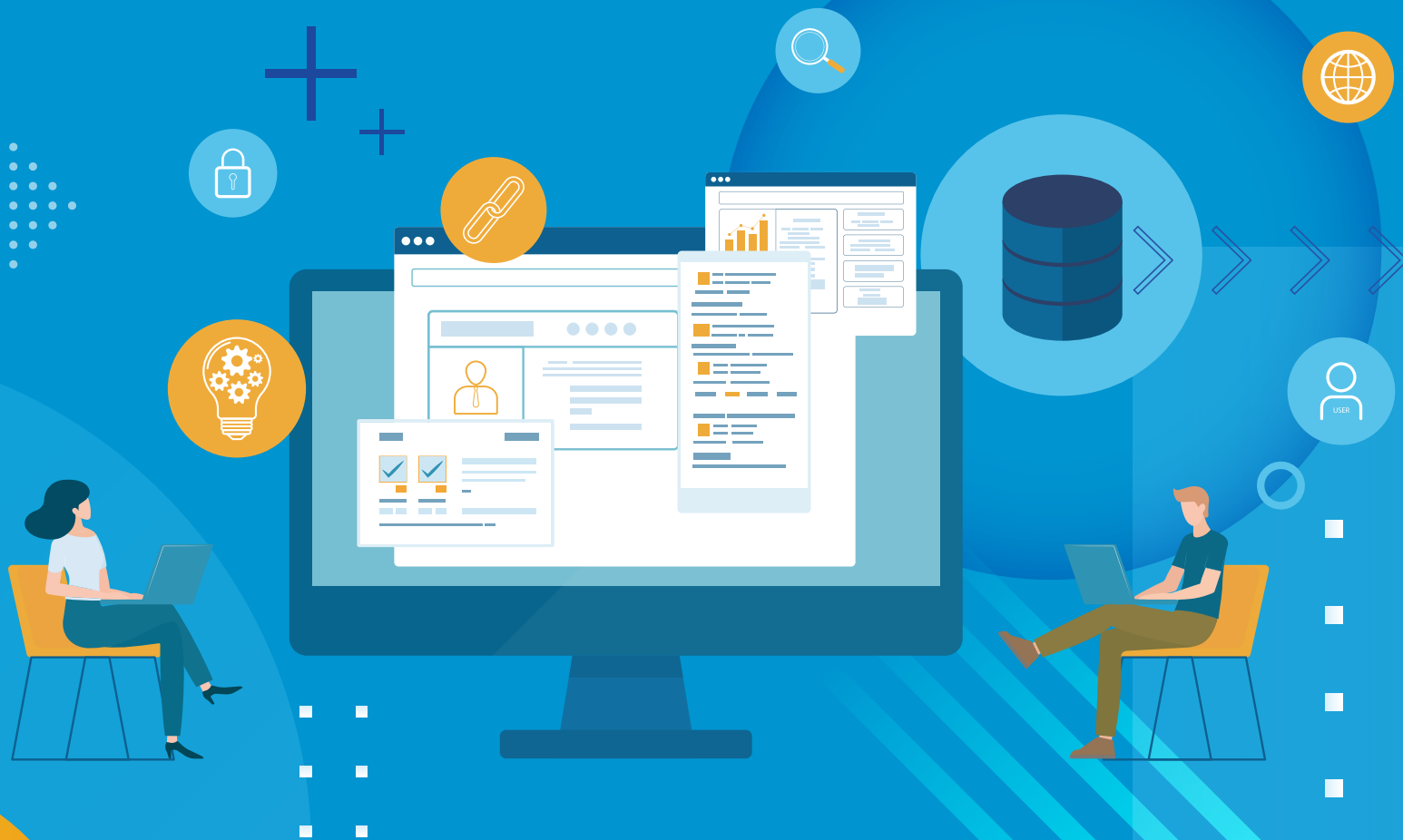


もうデータ活用に悩まない

マスターデータの変更なしで ほしいインサイトを得る方法



イントロダクション

なぜデータ活用に悩むのか？

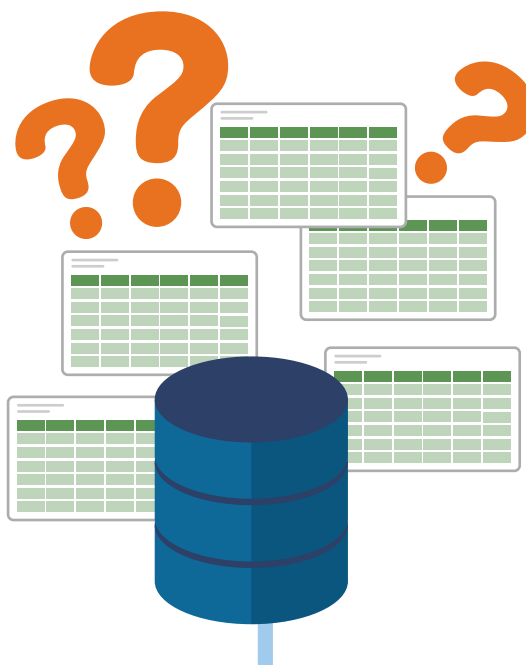
ビジネスを取り巻く環境の変化のスピードが加速度を増している現在、データ活用の重要性はますます高まっています。経営層は迅速な意思決定を求められ、ビジネスを下支えする経営企画部門や DX 部門では意思決定に必要なダッシュボードやレポートをさまざまな切り口で構築、業務部門はデータドリブンな施策の実行がラスト。みなそれぞれの業務の PDCA のためにデータを活用しようとしています。

しかし、実際はどうでしょう？この e-book をダウンロードしたあなたも「思ったようにデータを活用できない」という悩みを抱えているのではないのでしょうか？

その大きな原因の一つが「マスターデータ」にあります。マスターデータとは、企業が業務を遂行するために必要な基本データ（顧客情報、製品情報、取引先情報など）のことを指します。これがデータ活用のボトルネックになっているのです。

たとえば、こんな課題はありませんか？

- マスターデータの粒度が細かすぎて見たいまとまりで分析できない
- マスターデータに含まれる情報が限られていて見たいカットで分析できない
- ダッシュボードを作成しようとしても、各部門のデータがバラバラで統合できない
- せっかく統合したデータも、マスターデータが更新されておらず不正確なものになっている
- 分析に必要なデータを取得するのに、IT 部門の手を借りなければならず時間がかかる



では、本当に「マスターデータを完璧に整備しなければ、データ活用はできない」のでしょうか？もし、マスターデータに依存せず、ほしいデータを必要な単位で取得できる仕組みがあればどうでしょうか？

本 e-book では、従来のマスターデータに手を入れることなくデータ活用を実現する、柔軟で効率的な新しいアプローチをご紹介します。



データ活用の課題 マスターデータの限界

データを活用してビジネスの状況を分析したり洞察や予測を得るためには、まずマスターデータを正しく取り出せるように整備する必要がある——これは、これまでの一般的な考え方でした。

しかし、マスターデータにない情報と掛け合わせて分析したい、マスターデータの粒度とは別の軸で分析したいなど、欲しい情報とマスターデータで対応できることには限界があるのも事実です。

このような問題を解決するために、多くの企業はマスターデータの整備に力を入れています。しかし、マスターデータを管理するには膨大なリソースが必要であり、データの更新が遅れると意思決定に支障をきたすことも少なくありません。

現実には以下のような問題が発生します。

1

マスターデータの整備には 時間とコストがかかる

マスターデータを適切に管理するためには、データの重複を排除し、一意の ID を付与し、定期的に更新する必要があります。この作業には IT 部門のリソースが必要であり、特に大企業では数カ月～数年単位のプロジェクトになることもあります。

2

変化の激しいデータに 対応しづらい

市場や顧客の動向が変わる中で、新しいデータソースを追加する必要があります。しかし、マスターデータの整備が前提のデータ統合では、新しいデータを追加するたびに大掛かりな更新作業が必要になり、柔軟なデータ活用が難しくなります。

3

部門ごとのデータ要件に応じた 柔軟な分析ができない

たとえば、営業部門とマーケティング部門では、顧客データに対する視点が異なります。営業部門は取引履歴を重視し、マーケティング部門はキャンペーン履歴を重視します。しかし、マスターデータに統一しようとする、どちらの要件も満たす完璧な形を作るのが難しくなります。

では、さっそく次の章から、マスターデータを整備しなくても、データを活用できる解決策を見ていきましょう。

3

解決策

マスターデータの変更なしでデータを活用する新しい方法

マスターデータの整備が難しいならば、そもそも「マスターデータに頼らずデータを統合する」アプローチを考えてみてはどうでしょうか？これがセゾンテクノロジーの提案です。

そして、ここで注目したいのが「疎結合」によるデータ統合の考え方です。

「疎結合」アプローチとは？

疎結合とは、システムやデータを密接に結びつけるのではなく、必要な部分だけを柔軟に連携させる設計思想のことです。従来のデータ統合では、すべてのデータを統一しようとするためにマスターデータが必要でしたが、疎結合の考

え方を取り入れることで、マスターデータなしでもデータの統合・活用が可能になります。

このアプローチを採用することで、「必要なデータを、必要な単位で、必要な時に」取得できる環境を実現できます。(図1)

疎結合に必要なデータ連携基盤とモダンデータスタック

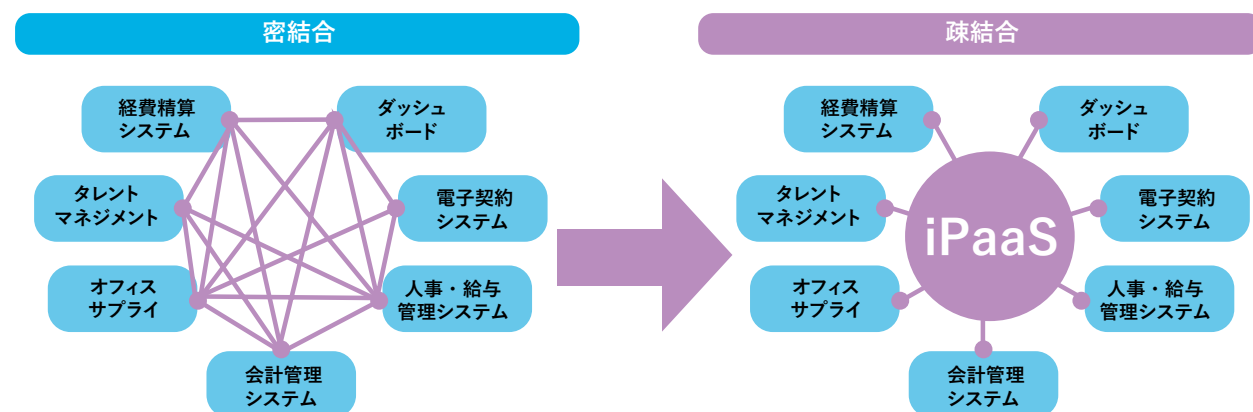
多くの企業の社内には、クラウドという概念がない時代に構築されたシステム上に蓄積されたデータも存在するのではないのでしょうか。オンプレミス上のデータとクラウドや SaaS 上にあるデータを連携させたいというニーズにも疎結合

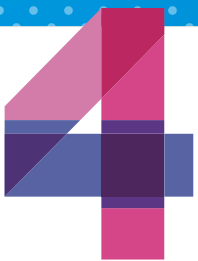
は有効です。その際に疎結合の中心にハブとして必要になってくるのが、iPaaS（Integration Platform as a Service：アイパース）と呼ばれるデータ連携基盤です。iPaaS は、異なるクラウドサービスやオンプレミスのアプリケーション同士を連携させ、データをリアルタイムで統合・同期することができます。これにより、複数のシステム間での自動的かつ柔軟なデータの流れを可能にし、ビジネスの生産性が大幅に向上します。

このように、企業が大量のデータを効率的に収集・保存・処理・分析するためのクラウドベースのツールと技術を組み合わせたデータ基盤をモダンデータスタックと呼びます。モダンデータスタックを導入することで、専門知識を持たないビジネスユーザーでもデータにアクセスしやすい環境が整い、現場で即座にダッシュボードを確認し、経営層と同じ情報を共有する文化が浸透しやすくなります。

これらの技術的アプローチを踏まえ、次の章ではセゾンテクノロジーが提案する新しいアプローチの実践方法をご紹介します。

■ 図1—密結合と疎結合の違い





脱マスターメンテ！

「疎結合 × 生成AI」でデータの民主化を推進

データを活用するために、「疎結合」の考え方に加えてもう一つ重要なのが、「自分がほしいデータがどこにあるのか?」「どのデータをどう組み合わせたらほしい情報になるのか?」という問題です。

セゾンテクノロジーではそこに「生成 AI」を組み合わせることで、ほしいデータに簡単にアクセスできるようにすればいいのではないかと考えました。平たく、そして少し乱暴に言ってしまうと「難しい処理は生成 AI に任せてしまえ!」という発想です。

ChatGPT を使うように、

「データから現状を要約させるプロンプト」

「データをもとにグラフや画像を作るプロンプト」

「データを様々なカットで分析するプロンプト」

を日本語で投げかければ、ほしい情報を返してくれるのです。

いかがですか？

あなたの会社でも実践できそうな気がして来たのではないのでしょうか？

この疎結合 × 生成 AI の組み合わせはデータの民主化を実現するために重要な三要素と言われている

- データへのアクセス
- データの理解
- データの活用

を、いとも簡単に実現します。

このアプローチにより企業のデータ活用は大きく変わります。

- **DX 部門・経営企画部門**：データ統合のスピードが向上し、リアルタイムな経営判断が可能に
- **業務部門**：IT 部門に頼らず、自分でほしいデータを取得できるため、業務改善がスムーズに
- **IT 部門**：マスターデータの管理負担が軽減し、より戦略的なデータ活用に注力できる

次の章では、具体的なユースケースを見ていきましょう。

データのバラバラをスルスルに

iPaaS型データ連携基盤

HULFT SQUARE

ハルフトスクエア

セゾンテクノロジーが開発したiPaaS(クラウド型データ連携プラットフォーム)です。古くからあるオンプレミス型のレガシーシステムからクラウド上にあるSaaSまで、さまざまな環境に分散しているデータを自由自在に連携させることができます。

以前にも増してデータ活用のニーズが高まる現在。「HULFT Square(ハルフトスクエア)」を使ってデータ活用の基盤を構築し、「家康と政宗ハイブリッド戦略」でビジネスの持続的な成長と競争を勝ち抜く俊敏性を手に入れませんか？

製品詳細は以下よりご確認ください。
<https://www.hulft.com/service/hulft-square>



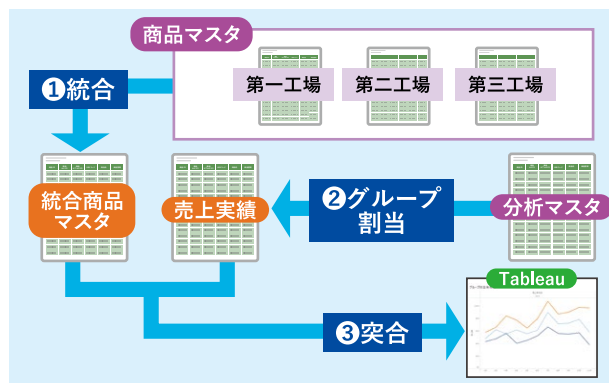


実際にどう活用できるの？〈ユースケース3選〉

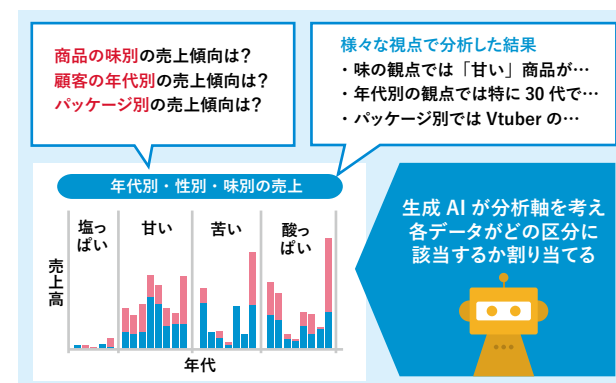
ケース1 商品データの動的分析

お菓子が主力製品の食品メーカーでは、同じ味のビスケットであってもパッケージが違えば新しい商品マスターが振られます。しかし、分析するには粒度が細かすぎるため、分析したい軸に応じてグルーピングできるようにしたいと考えていました。そこで、分析用のマスターを作成し（図2-1）、別のシステムにある売上情報と紐づけ、AIにより多角的な視点でインサイトを引き出せるようにしました（図2-2）。

■ 図2-1—何をしているの？（データで語る）



■ 図2-2—商品の売上データから、AIが多角的な視点でインサイトを引き出す

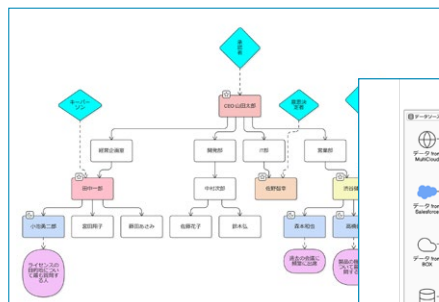


ケース2 B to B ビジネスにおけるアカウントストラクチャー図作成支援

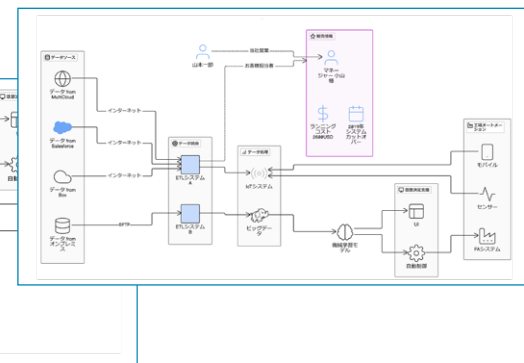
B to B の多くの企業ではアカウントごとに担当営業がいて、商談の状況などを CRM にまとめています。

期初に向けたアカウントプラン作成時や引き継ぎの時などに、CRM 上にある基本情報に加え、活動履歴のメモなどを自然言語解析させつつ、CRM 外のさまざまな情報を組み合わせ、生成 AI を介してアカウントの状況を把握するための各種ストラクチャー図を生成します。（図3-1,2,3）

■ 図3-1 企業組織図



■ 図3-2 お客さまシステム俯瞰図

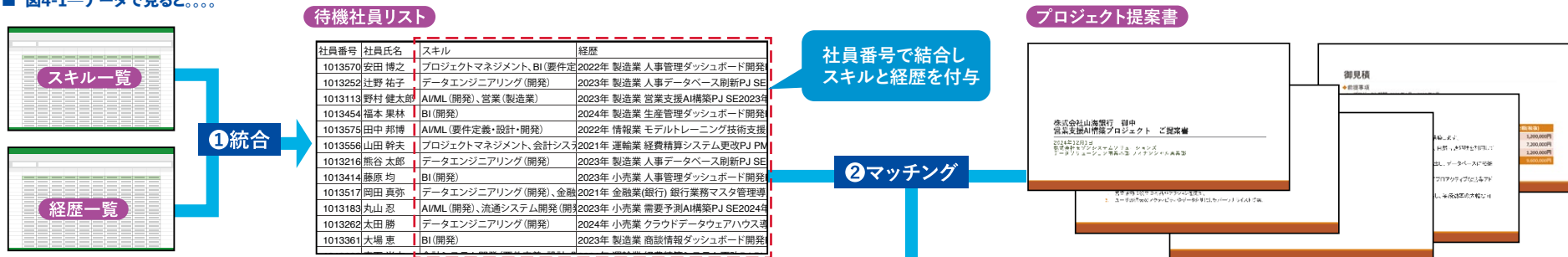


■ 図3-3 アカウントプラン システム更改提案

実際にどう活用できるの？〈ユースケース3選〉

ケース3 プロジェクト要員アサインメント

■ 図4-1—データで見ると。。。.



人事情報と提案書の内容を元データとして生成 AI と組み合わせることで、新しいプロジェクトに向けた担当のアサインメントも可能となります。

プロジェクトの内容や難易度などを提案書から取得させ、さらに社内の人事システム上の社員のスキルや経歴情報、現在の稼働状況（図 4-1）などを生成 AI が加味し、アサインメントメンバーを選出します（図 4-2）。

■ 図4-2

アサイン表

役割	氏名	スキル	経歴	選定理由
プロジェクトマネージャー	高橋 章寛	プロジェクトマネジメント、金融システム開発（要件定義・設計・開発）	2021年 金融業(保険) 顧客管理システム刷新PJ PM 2023年 金融業(銀行) ATMネットワーク改修PJ PM 2024年 金融業(銀行) 新勤定系システム開発PJ PM	金融業界のプロジェクトマネジメントが豊富であり、銀行向けプロジェクトに精通しているため。
プロジェクトリーダー（システムアーキテクト）	前田 淳一	AI/ML（要件定義・設計・開発）	2022年 情報業 コールセンター支援AI構築PJ SE 2023年 製造業 営業支援AI構築PJ SE 2024年 小売業 営業支援AI構築PJ SE	営業支援AI構築プロジェクトの経験が複数あり、システムアーキテクトとして適任であるため。
開発メンバー（AIエンジニア）	野村 健太郎	AI/ML（開発）、営業（製造業）	2023年 製造業 営業支援AI構築PJ SE 2024年 小売業 営業支援AI構築PJ SE	営業支援AI構築の経験があり、過去のプロジェクト経験が豊富であるため。
開発メンバー（AIエンジニア）	佐藤 剛生	AI/ML（開発）、金融システム開発（開発）	2021年 金融業(証券) AI構築コンサルティング支援PJ SE 2023年 金融業(保険) コールセンターAI導入PJ SE 2024年 金融業(銀行) 取引予測AI技術検証PJ SE	金融業界でのAIプロジェクト経験があり、銀行向けプロジェクトでも実績があるため。
開発メンバー（データエンジニア）	岡田 真弥	データエンジニアリング（開発）、金融システム開発（開発）	2021年 金融業(銀行) 銀行業務マスタ管理導入PJ SE 2023年 金融業(保険) 決済トランザクション処理改修PJ SE 2024年 金融業(証券) クレジットカード情報取得API構築PJ SE	金融業界でのデータエンジニアリングの経験が豊富で、銀行業務についての知識も持っているため。
開発メンバー（データエンジニア）	辻野 祐子	データエンジニアリング（開発）	2023年 製造業 人事データベース刷新PJ SE 2024年 小売業 クラウドデータウェアハウス導入PJ SE	データエンジニアとしてのプロジェクト経験があり、クラウドデータウェアハウスの導入経験もあるため。

提案書の内容をもとに待機社員リストから生成 AI が要員を選定

“データ”を経営の中心に

企業のデータ活用推進をご支援

セゾンテクノロジー データインテグレーションサービス

セゾンテクノロジーの「データインテグレーションサービス」は、SaaSの導入・データ連携基盤の構築・データ活用のための可視化などをご支援するサービスです。

データを有効活用するために、それぞれの企業にあわせた最適な手順や手法で、散在するシステムやデータをつなげ、データ連携基盤の構築から活用まで幅広くサポートします。

ぜひオンラインの窓口からご相談ください
<https://www.hulft.com/contact/online>





まとめ

もうデータ活用に悩まない

いかがでしたでしょうか？

マスターデータに縛られないデータ活用実現のために、
セゾンテクノロジーではさまざまな企業の課題を洗い出し、
最適なアプローチのご提案をいたします。
ぜひセゾンテクノロジーにご相談ください。

SAISON
TECHNOLOGY

株式会社セゾンテクノロジー

www.hulft.com

お問合せ

[e-mail marketing@saison-technology.com](mailto:e-mail_marketing@saison-technology.com)

- HULFT、その他 HULFT 関連製品は、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。
- 記載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示 (TM、®) を付記していません。

このカタログの記載内容は、2025 年 1 月現在のものです。本カタログの記載内容は予告なく変更することがあります。
© Saison Technology Co., Ltd. 2025